

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)）

分担研究報告書

難治性血管腫・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究

分担課題 リンパ管奇形 診療ガイドラインの策定

松岡健太郎 北里研究所病院病理診断科 医長

研究要旨

血管腫・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症およびその関連疾患を対象とした研究を行うことを目的とした研究のうち、主としてリンパ管腫・リンパ管腫症の病理学的診断についてまとめた。このことで、適切な病理学的診断を行うことを可能とし、患者の診断・治療に貢献することが期待される。

A. 研究目的

脈管疾患のうち、リンパ管疾患にはリンパ管腫とリンパ管腫症及びその関連病変があるが、それぞれの病態の異動、分類は未だ混乱があり診断・治療を困難にしている。このため、血管腫・脈管奇形診療ガイドライン作成にあたり、国際分類との整合性を取りながらリンパ管異常症の整理、分類を行う。

B. 研究方法

本研究は、調査研究が主であること、また、病理診断基準作成のために用いた病理組織標本は手術などによって得られたもので、研究対象に対して新たな侵襲を加えることや遺伝子解析を行うことはなく、本研究者が研究を行うにあたり、倫理面の問題はなかった。

C. 研究結果

平成26年：血管腫・脈管奇形診療ガイドラインにおける病理診断基準作成のため、リンパ管異常症症例の収集並びに診断のレビューを行った。

平成27年：病理診断基準については総説として記載することが班会議にて決定したため、これに応じた診断基準の作成を

International Society of Studying Vascular Anomaly (ISSVA)の分類に則したものとして行った。

平成28年：診療ガイドラインの最終化を行った。

D. 考察

リンパ管異常症の発症については未だ不明な点が多い。病変が奇形であるということについては概ね合意が得られているものの、その用語については混乱している。今回、リンパ管異常症の病理組織学的分類を国際分類との照合の上おこなったことで、今後整理が進むと考えられる。しかしながら、診療現場では旧分類は存続する可能性があり、一層の啓蒙が必要と考えられる。

E. 結論

当研究で行ったリンパ管異常症の病理診断を整理、分類はこれまで混乱の多かったこの分野の診断・治療技術の向上に資するものと考えられる。

F. 研究発表

1. 論文発表

1) 高橋正貴, 藤野明浩, 小関道夫, 渡邊稔彦, 前川貴伸, 松岡健太郎, 野坂俊介,

黒田達夫, 瀧本康史, 金森豊. 難治性胸水の外科治療. 小児外科 2016;48(9):933-937

2) 松岡健太郎. リンパ管疾患の病理診断. 小児外科. 2016; 48(12):1252-1256.

2. 学会発表

1) 松岡健太郎, 岩淵英人, 大喜多肇, 坂田佳子, 中澤温子, 高橋正貴, 野坂俊介. 縦隔腫瘍の一例. 第128回 関東東海地区小児病理カンファレンス. 2014年6月20日

2) 松岡健太郎, 高橋正貴, 藤野明浩, 岩淵英人, 大喜多肇, 中野夏子, 中澤温子. リンパ管奇形(Lymphatic malformation) の病理学的鑑別. 第34回日本小児病理研究会, 2014年9月6日, 岡山市

3) 松岡健太郎. リンパ管奇形(リンパ管腫・リンパ管腫症)病理診断の標準化と新たな試み. 第31回 日本小児外科学会秋季シンポジウム. 平成27年10月31日. 熊本市

4) 松岡健太郎. リンパ管“奇形”かリンパ管“腫”か病院病理医の立場として感じる問題点. 第2回小児リンパ管疾患シンポジウム. 東京. 2016. 9. 18.

G. 知的所有権の出願・取得状況(予定を含む)

1 特許取得

なし

2 実用新案登録

なし

3 その他